

## 欧米と日本

大阪大学基礎工学部 今中利信

文部省在外研究員として満一ケ年アメリカ続いてヨーロッパを訪問し、この期間中に私の感じた点を主観的に述べてみたいと思います。

アメリカもヨーロッパもいわゆる白色人種は遊牧民族としてのまた寒いキリスト教国としての特性を備え、一方日本は農耕民族としての水の豊富な仏教国としての特性を備えていると感じます。例えば食物についてですが、ヨーロッパは緯度が高く寒い国が多いためか、アメリカも含めて肉すなわち動物を主食とし、油っこいものを平然と平らげ、そのためかワインを多く飲み、消化を助けているとか聞きます。これに対して日本は仏教の教えのためか、殺生を避け、主食は米すなわち植物で油の多い食物はあまり食べません。ただし周りを海に囲まれているためか、海産物をよく食べます。このことは欧米は肉食のため動物の血を見ることにあまり抵抗を感じなくなっているのではないかと感じます。ヨーロッパ各地にある美術館などの中世の絵画はキリストの処刑の絵が多く、大抵血を滴らせています。またヨーロッパの水は飲料に不適當な比較的無機物を多く含んだ硬水で、水道の蛇口に多くの沈積物が付着しているのを見かけます。この水ではビールやワインが発達したのもうなづけます。欧米のビールは種類が豊富で日本のビールよりもアルコール濃度は低く、水の代りに飲んでいました。ミュンヘン大学では研究室にビールビンがごろごろしていました。珍しいものでは煙入りビール（燻製ビール）もあ

ります。欧米ではあまり入浴しないようですがこれは寒いヨーロッパでは汗をかくことも少く空気が乾燥しているためだと思われます。日本の梅雨のようなむし暑さでは到底体を洗わずにはおれません。それから一般に日本人いわゆる黄色人種の体型は“ずんぐり”型でヨーロッパ系のそれは“すんなり”型と云ってよいと思います。デパートでの洋服の寸法なども、かなり細いタイプの日本人でもヨーロッパ系の標準よりもずんぐり型のため、肥満型を買わねば体に合わないとか聞きます。つぎに住居の問題ですが、ヨーロッパは寒い冬が長いため窓の面積を小さくし、暖房し易く作られていることに気がきます。また日照時間が短く、しかも雪空が一面を覆い、殆んど直射日光を浴びることの出来ない時が何日も続き、健康を維持するために太陽のよく当る夏には出来るだけ肌を露出して日光浴する必要があり、長い夏休みは健康のため必須の条件だと聞きます。この点かなり日本と様子が異なっています。かつての王侯貴族がその富を欲しむにした金、銀、絵画それに彫刻で飾られた絢爛たる“けばけばしい”宮殿を見ていると日本独自の城郭や水彩画は“しっくな”奥ゆかしさを感じます。ここでも民族の相違を感じさせます。

アメリカの砂漠も含めたその広大な領土（水さえ有れば新しい土地がどしどし開発され得る余力を感じざるを得ません）、ソルトレイクシティ近くの果てしのない塩の海、グランドキ

ャニオン、ブライスキャニオンなどの国立公園の雄大な景色が私には強く印象に残っています。それに殆んど走っている車を見かけないにも拘らず広い分離帯で隔てられ、完全舗装された立派な道路が完備しています。これに対してヨーロッパではたくさんの小型車が行き交い、駐車場は水も出ないし、これと云った設備は何もありません。この相違はアメリカでは鉄道が発達していないため、唯一の交通機関が自動車であるためと思われます。欧米諸国の都会はどこでも車の駐車には頭をいためているようです。ローマでは両側でも列駐車しているのを見ました。これでは広い道路も台なしです。アメリカ、スイス、ならびにオランダではよく日本の小型車を見かけました。故障が少なく、ガソリンの消費量の少いこと、内装が優れていることなどで評判はよいようですが、長持ちしないと云うことでした。しかし、ドイツ、フランスならびにイタリアでは殆んど見かけませんでした。ヨーロッパでも日本製品の進出にはかなり神経質になっているようです。

ヨーロッパの風景はアルプス以外は平坦な牧草地帯で、かの有名なローレライは日本でならどこにでも転がっているような岩山ですし、ライン川の水は薬品の臭いのする濁った水です。その点日本の景色は立体的で美しく、丁度スイスの山々を少し低くしたような感じですが、その代り有効土地面積は極度に狭く、資源に乏しいことを感じます。例えば西ドイツは日本と面積も人口も似たようなものですが、有効土地面積は比較にならないし、資源もはるかに豊かです。

アメリカの大学はかなりまづしい学生が多いように思います。つぎはぎだらけのスポンをはき、ポンコツ寸前の旧式の自動車に乗って新車と肩を並べて走っています。これは成人になると両親が子供の面倒を見なくなるためだそうです。そのためか日本系あるいは中国系の二世の

アメリカ人などは成人してからでも子供の面倒を見る習慣が残っているため、最近では大学に通っている人達が比較的多くなっているようです。私の滞在していたスタンフォード大学は私立の大学ですが、授業料は日本と比較するとかなり高価で一ケ年約3000ドルだそうです。そのため生活費を教授の獲得した研究費で賄っている学生が多くいます。また州立大学でも外国に国籍のある学生は授業料が高く、しかも結婚すると自国へ帰らなければならないそうです。しかも最近ではアメリカで外国人が職を探すのは大変で、かなりきびしく規制されているようです。週休二日制は欧米では行き渡っていますが、忙しいウィークデーの反面、週末を楽しんでいるように見えます。通勤時間の小型車に対し、週末にはのろのろ運転のキャンピングカー、後部に自転車を積んだ車などをよく見かけます。スタンフォード大学では土曜日でも午前中は大学へ出かける学生がかなりいるようであまり日本と異った感じがしませんでした。設備でも日本と比較して種類の面では大差なく、唯量的に劣っていると云った感じです。ドイツの大学は日本とよく似ていますが、学生はジムナジウムを修了する時にかなりきびしい試験があり、大学へ進学できる学生とできない学生とを篩い分けています。また入学後はきびしい試験で不合格科目の多い場合、あるいは重要科目を落した場合には別の一段程度の低い専門学校へ転校させられる仕組みになっています。この意味で学校格差はひどいように感じます。学部学生の卒業論文は丁度日本のマスター程度に相当しているのんびりと、しかし精力的に研究しているように見受けました。ドイツの大学は企業と密接につながっていて教官の個人的な交渉により研究費を獲得し、その企業と直接関係のない基礎研究を行っています。

総じてアメリカは少し異っていますが、欧米諸国はどこも似たりよったりでよく似た印象を

## 生産と技術

受けましたが、気候、風土がいろいろの習慣を作り上げ、その土地に最も適した生活を営んでいることを感じました。日本のように資源の乏しい人口密度の高い国では唯一の力は質の良い労働力であり、従来からの勤勉さを失うと欧米

諸国と競争し得る何もかも残らないように感じました。少量の資源を用いての研究から新しい優れた研究、それに新しい技術の開発の重要性を強く感じて帰国しました。